

申8号 2013年度

# 年末手当

に関する申し入れ 第1回交渉実施!

## 組合 満額回答に向け、要求の根拠・正当性を堂々と主張!

- 第2四半期決算は、大震災から力強く回復し、自立的に経営基盤を底上げした「増収増益」の好決算! 第2四半期決算としてはJR発足26年間の中でもかなり上位に位置する。こういう数字を出していた時の年末手当は3.数ヶ月が妥結内容だった!
- 各種施策を確実に行えば、このトレンドを阻む材料はなく、通期も期待できる。
- 人事・賃金制度の見直しや検修職場の外注拡大、営業職場の子会社化の見直し施策など組合員の経費削減努力、増収努力の結果である。
- 中間決算を見ても出せる体力はある。黒字企業として社会的役割・責務を果たすべきだ。
- 企業の持続的成長は、現場で働く組合員の協力、努力なくしてありえない。気持ちよく仕事ができるように公正な配分を求める。
- 基準内賃金の3.4ヶ月プラス5万円を要求した。定額で求めたのは若い人と上位職との格差を是正するため。
- 抑制する理屈を並べるのではなく、実績を素直に見るべきだ!

組合員の頑張り、日本経済のいく末を考慮し、満額回答を要請する!

## 会社 「通期業績予想達成のためには相当な努力が必要」と繰り返す

- ① 第2四半期決算は好調であるが、平成4年度の実績やリーマンショック前の平成20年度に比べて200億円以上の減。燃料費の増、トンネル落下や常磐線復旧工事など物件費増を見込んでおり、通期営業利益予想を達成するには相当な努力が必要。
- ② 経済状況は緩やかに回復しているが、海外(米・欧州)景気下振れが懸念される。
- ③ 政府はデフレ脱却を目指しているが、インフレになれば金利が上昇し、3.2兆円の負債を抱える当社に影響がある。運賃を上げられないのでコスト削減を迫られる。
- ④ 年末手当は上期の業績は受け止めつつも、様々な環境、公益性の高い会社であることなどを総合的に判断する。

期末手当の交渉スタート! 次回交渉は11月8日。  
組合員の声を受け、満額回答を目指します!